

ら教育費を分析して、その意義を明らかにしたいと思う。

2. “教育費”の家族経済学上の特徴 “教育費”は他の生活費に比べて (1)家族経済的投資の性格が高く、その効果は原則として、次の世代の家族経済によって受け取られる。また (2)“教育費”は比較的選択を許す部分と許さない部分との二重構造をもっている。

3. “教育費”の分析 (1)総理府統計局の家計調査による“教育費”の動向 (A)“教育費”の消費支出総額に対する割合は年々増大している。(B)“その他の諸費”中に占める“教育費”の割合には大きな変動はない。(2)文部省調文員負担の教育費調査による“教育費”の動向 (A)生徒1人当り“教育費”および1世帯当り“教育費”は年々増大している。この金額は家計調査によるものよりもはるかに大であるが、この伸びは家計調査によるものよりも小である。(B)文部省調査に基く1世帯当りに推計した“教育費”の統計局調の家計調査の消費支出総額に対する割合は年々増大しているが、その割合は家計調査によるものよりも小である。今回は以上の結果について家族経済上の意義を考察する。

#### 4. 戦後日本の家族経済における教育費の分析

##### (第1報)

お茶の水女子大 伊藤 秋子

1. これまで食物費を中心に家族経済の消費構造を分析してきたが、今回からは、教育費を中心としてこれを行なう。教育費については今日教育の機会均等を基本原理の1つとする教育政策の見地からは比較的研究されているが、私経済的立場からの裏づけは必ずしも十分になされているとはいえない。そこで私は家族経済の見地か